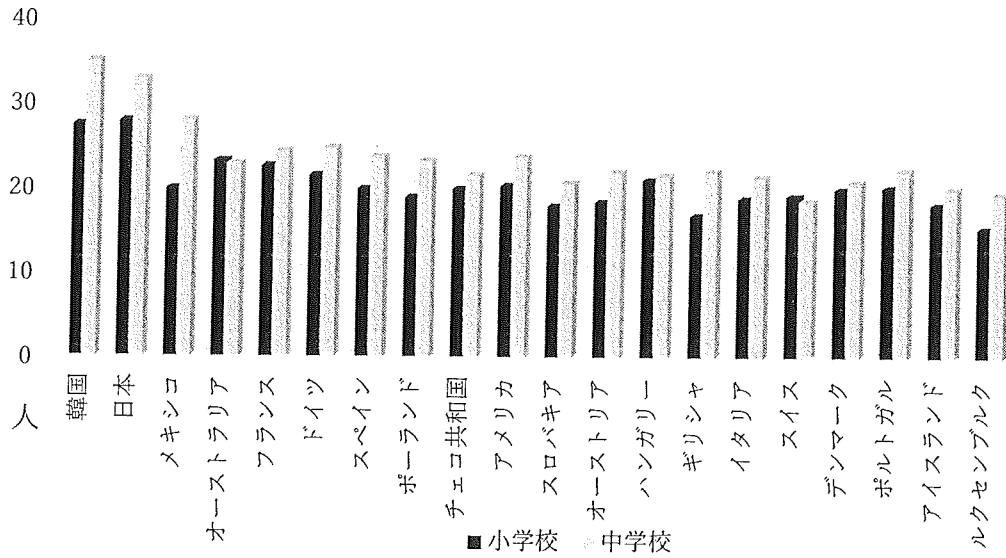


「データが語る①子どもの実態」(著 河村茂雄) <図書文化>より抜粋

◎「学級の人数」－何人が最適か？

資料1 平均学級規模の国際比較 (2010年OECD調査)



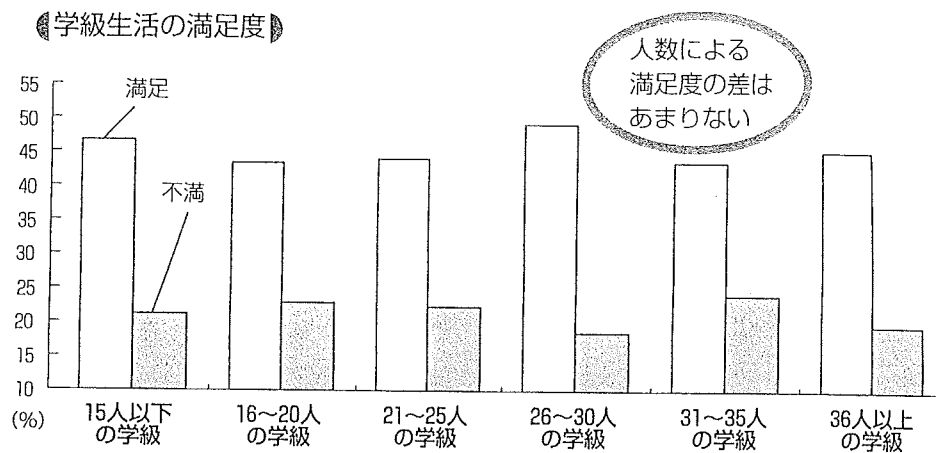
調査結果の考察

1 小学生

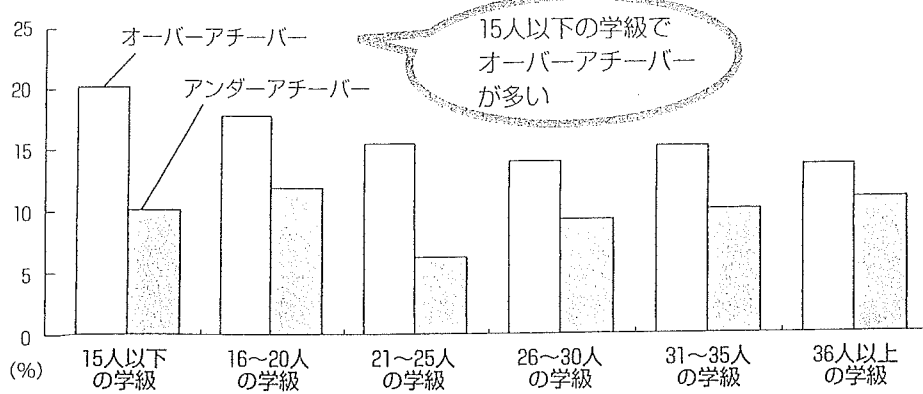
○小学校2～3年生

- ・学級生活の満足度に違いはない
- ・学力の定着度は15人以下で高い
- ・学習意欲は31人以上で低下

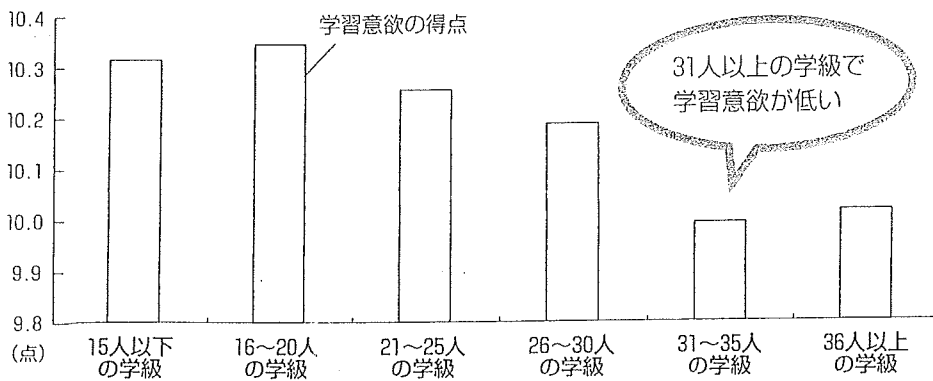
☆小学校2～3年生の学級規模による比較



《学力の定着度》



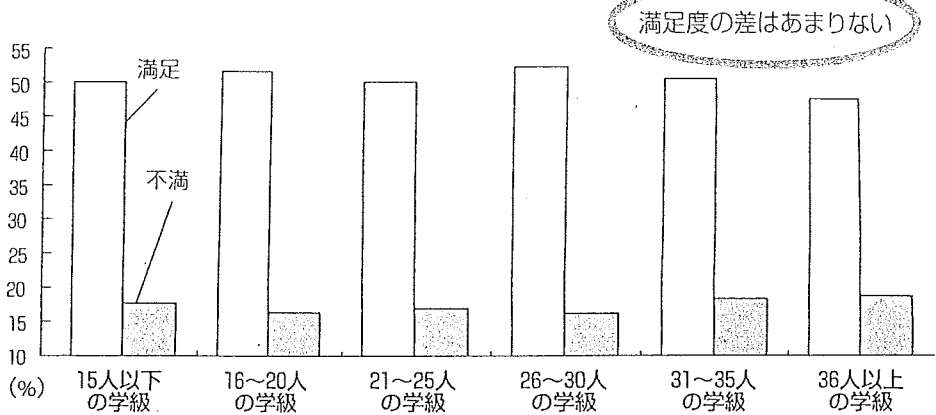
《学習意欲》



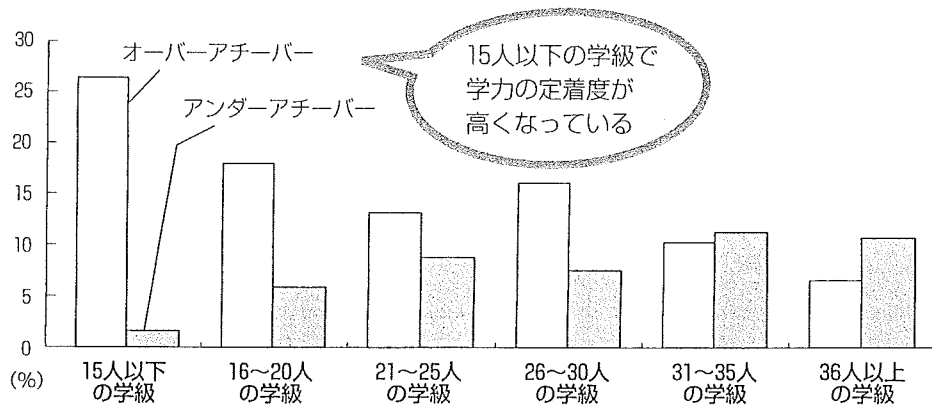
※オーバーアチーバー：学力の定着度が高い
 アンダーアチーバー：学習の定着度が低い
 バランスアチーバー：学習基礎能力相応の学力が定着している状態

☆小学校4～6年生の学級規模による比較

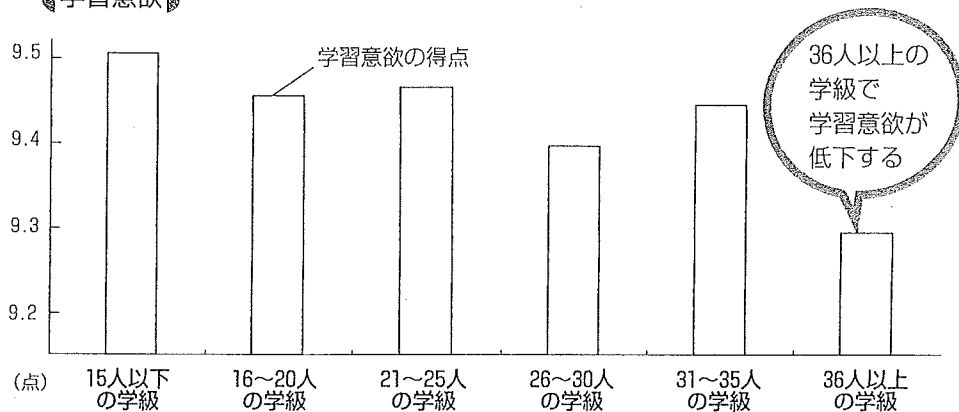
《学級生活の満足度》



【学力の定着度】



【学習意欲】

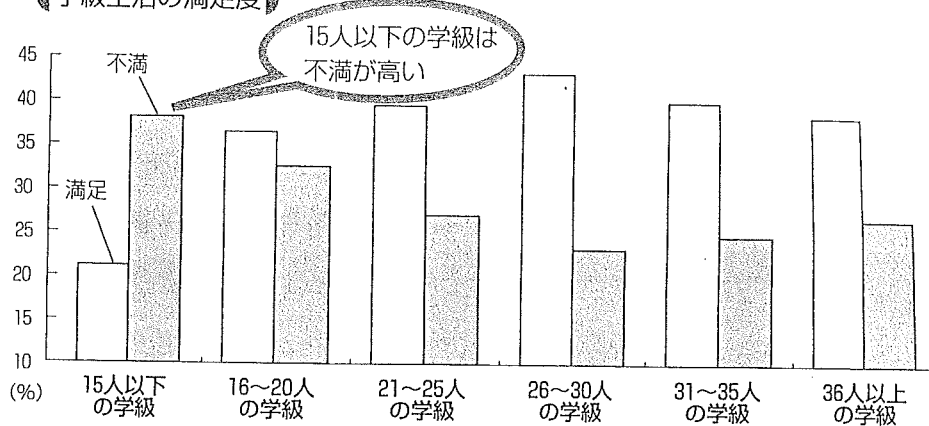


2 中学生

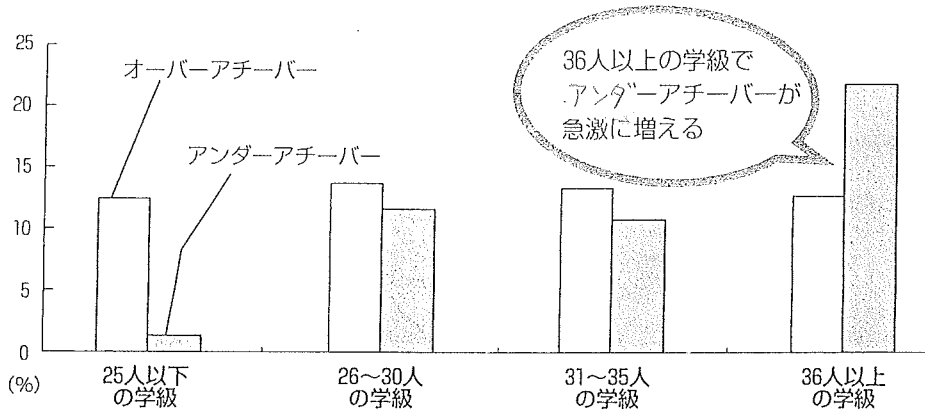
- ・ 学校生活の満足度は 26 ~ 30 人で最も良好
- ・ 学力の定着度は 26 ~ 35 人がよい
- ・ 学習意欲は人数が多くても少なくても低くなる

☆中学校 1 ~ 3 年生の学級規模による比較

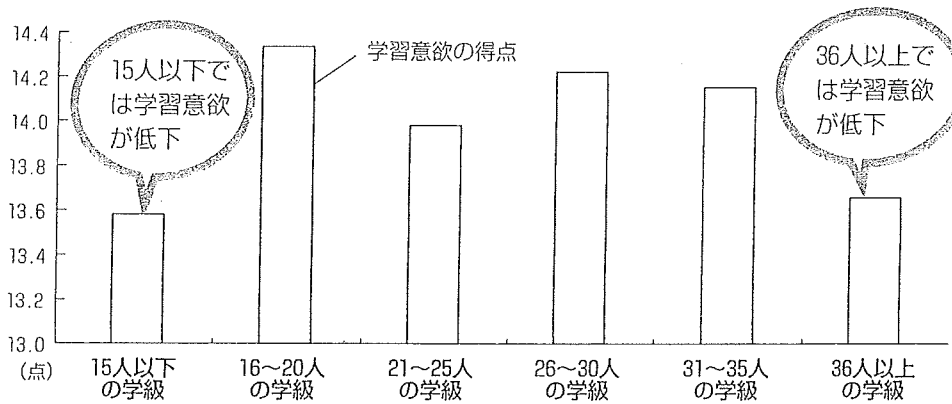
【学級生活の満足度】



《学力の定着度》



《学習意欲》



◎ 「学力の定着」「学習意欲」は、「学級的人数」より「学級集団の状態」の方が強い関係を持っている。

◎ 子どもの学級生活満足度が高い学級は、「学力の定着」「学習意欲」に対して大きな影響を及ぼすだけでなく、いじめ・不登校などの不適応を予防すると考えられる。

◎ 子どもの学級生活満足度が高い学級は、教師の指導により「楽しく活動するためのルールの確立」「教師と生徒、教師と家庭、生徒同士の双方向の援助的な人間関係」が構築されている。